

令和 6 年度事業報告について
(令和 6 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)

1. 令和 6 年度助成事業について

(1) 研究助成金の交付

令和 6 年 3 月 5 日の選考委員会の答申を受け、3 月 12 日開催の令和 5 年度第 2 回定時理事会で承認された土木分野 16 件、建築分野 19 件、i-construction 部門 5 件の計 40 件について、助成金計 3,999 万円を 4 月及び 10 月の 2 期に分けて交付した。

土 木 分 野	No.	助成者名	所属	研究課題	助成金 (万円)
	1	白崎 伸隆	北海道大学	サポウイルスに対する浄水消毒処理の有効性評価：In vitro細胞培養増殖系の活用	100
	2	中西 智宏	京都大学	水道水源における病原性原虫リスクの分布：宿主特異的遺伝子マーカーの微生物リスク評価への活用	100
	3	杉山 友理	海上・港湾・航空技術研究所	電気浸透を用いた粘性土の新たな圧密手法の開発	100
	4	安原 英明	京都大学	AIと斜面変状モニタリングを融合した革新的アプローチによる土砂災害危険度評価	99
	5	橋本 勝文	北海道大学	ファイバーレーザーの高繰返しパルス照射によるコンクリート中の弾性波励起機構	100
	6	木戸 隆之祐	広島大学 (京都大学)	せん断変形による不飽和土の保水形態変化の解明	100
	7	松本 理佐	京都大学	溶射被膜の機械的性質に着目した桁端部の耐久性向上に関する研究	100
	8	伊藤 大知	早稲田大学	ベントナイト・砂質土混合材料の透水特性における砂質土の粒度・配合率による影響評価	100
	9	富樫 陽太	埼玉大学	トンネルの切羽安定問題におけるアーチ作用の予測法の開発	100
	10	吉田 夏樹	大阪大学 (島根大学)	コンクリートの遅延エトリンガイト生成に及ぼす骨材成分の化学的作用機構の解明	100
	11	横山 勇氣	愛媛大学	3DP製モルタル積層体の物質移動抵抗性に施工方法が及ぼす影響に関する基礎的研究	100
	12	松田 達也	豊橋技術科学大学	波浪による大口径構造物周りの地盤特性を考慮した土砂動態把握に関する実験的研究	100
	13	佐藤 史弥	山梨大学	南海トラフ巨大地震時の地盤沈降に伴う長期湛水に対する都市脆弱性の評価	100
	14	相馬 一義	山梨大学	地デジ放送波による水蒸気量変動推定の高密度直接観測による検証と豪雨予測への活用方策の検討	100
	15	吉本 憲正	山口大学	分級及び積層構造を有する砂のせん断メカニズムの解明	100
	16	吉田 亮	名古屋工業大学	コンクリート空隙におけるケイ酸ゲル生成メカニズムの解明と補修材開発への展開	100
	土木分野計				1,599万円

※ 所属欄の（ ）内は、申請時の所属。

建 築 分 野	No.	助成者名	所属	研究課題	助成金 (万円)
	1	野村 俊一	東北大学	建築史資料にみる建築情報の伝達と変容に関する研究	100
	2	畑中 祐紀	大阪大学	大振幅地震動が入力された免震建物の室内空間の被害評価	100
	3	三田村 哲哉	兵庫県立大学	エンヌビク・システムによる鉄筋コンクリート造建築の発達とその伝播に関する研究	100
	4	古川 琢磨	八戸工業高等専門学校	生体温熱モデルのデータ同化技術の援用による非定常環境の人体熱反応の予測	100
	5	三井 和也	東京工業大学	接着剤を活用した鋼構造接合部の体系的評価方法の確立と破壊メカニズム解明	100
	6	大内田 史郎	工学院大学	モダニズム建築の保存・活用におけるプロセスの検証－DOCOMOMO Japanによる選定建築物を対象として	100
	7	目黒 新悟	奈良文化財研究所	越後大工・小黒左右衛門が造営した建物の軒まわり構法―船形造の仏堂に着目して	100
	8	富永 京子	立命館大学	セルフビルドによる空き家・空き店舗改築による都市コミュニティ形成とその課題	100
	9	谷口 円	室蘭工業大学	硬化コンクリートの新たな気泡特性値に関する検討	100
	10	山本 直彦	奈良女子大学	イタリア都市研究手法（建築類型学）を応用したネパールの世界遺産都市の都市空間形成プロセスと都市型住居の調査研究	100
	11	佐藤 幸恵	東京都市大学	誘電測定による火災後のコンクリートの残存性能および強度回復性の評価	100
	12	小粥 祐子	崇城大学	『唐長』関連史料による京唐紙の研究 一第2期 京唐紙の伝播とその範囲についての実態把握	100
	13	松田 頼征	工学院大学	高力ボルト摩擦接合継手と頭付きスタッドによる鋼梁－コンクリートスラブ間のせん断力伝達の解明	100
	14	戸塚 真里奈	千葉大学	ダメージゾーン理論を用いた木質構造接合部の剛性評価法	100
	15	中屋 佑紀	北海道大学	AIを活用した活性汚泥ズーム画像のディープラーニングによる物理的処理性能の迅速診断法の開発	100
	16	山田 由香里	長崎総合科学大学	長崎の教会堂をつくった棟梁たちの、その後の活躍～カトリック福岡教区所蔵資料の調査研究	100
	17	日比野 陽	名古屋大学	地震時損傷を受けた基礎構造部材の土中環境による構造性能変化	100
	18	小澤 雄樹	芝浦工業大学	カーフバンディング技術を用いたActive-bendingシェル構造の形状制御	100
	19	田中 照久	福岡大学	部材リユースに資する鋼－コンクリート接合分離技術の性能評価に関する基礎研究	100
	建築分野計				1,900万円

I C 分 野	No.	助成者名	所属	研究課題	助成金 (万円)
	1	三好 扶	岩手大学	複数ROVの同時展開による水中長尺資材搬送とその組み立てに関する実験的検証	100
	2	永井 拓生	滋賀県立大学	3Dプリント接合部を用いた竹アーチ床システムの開発ーデジタルファブリケーション技術による竹構造普及の加速化	100
	3	Kim Kyeongmin	静岡大学	セルフパワードセンサーと機械学習を用いた海底泥の動態予測による海洋インフラ施設の効率的な管理システムの提案	100
	4	吉村 英人	岐阜大学	3Dデジタルデータを活用した河川・氾濫域の流れの三次元数値シミュレーション技術の開発	100
	5	有馬 孝彦	北海道大学	ハイパースペクトルイメージと深層学習を用いた自然由来重金属汚染土壌の現場判定への適用	100
	i-construction分野計				500万円
研究助成総計				3,999万円	

2) 国際会議助成金の交付

令和6年3月5日の選考委員会の答申を受け、3月12日開催の令和5年度第2回定時理事会で承認された4件の国際会議について、助成金計400万円を4～7月に交付した。

区分	No.	会議名称	期間	責任者	助成額 (万円)
建築	1	第21回 アジア都市環境学会国際会議2024 (東京)	令和6年10月11日～10月13日(3日間)	芝浦工業大学 建築学部建築学科 教授 村上 公哉	100
土木	2	第8回国際地震地盤工学会議	令和6年5月7日～5月10日(4日間)	東北大学大学院 工学研究科土木工学専攻 教授 風間 基樹	100
共通	3	第4回計算力学分野の進展に関する国際ワークショップ	令和6年9月18日～9月20日(3日間)	名古屋大学大学院 工学研究科土木工学専攻 教授 加藤 準治	100
土木	4	第4回き裂性岩盤内における連成プロセスに関する国際会議	令和6年11月13日～11月15日(3日間)	一般社団法人 岩の力学連合会 理事長 岸田 潔	100
国際会議助成合計					400万円

3) 特別研究テーマの選考

令和5年度から再開した特別研究テーマへの助成について、令和6年度の募集においては対象を従前のグループ活動のみに戻し、3月12日開催の選考会及び令和5年度第2回定時理事会で承認された14グループに対して、助成金計1,400万円を交付した。

2. 令和6年度顕彰事業について

(1) 前田工学賞及び山田一字賞の授与

令和6年3月5日の選考委員会の答申を受け、3月12日開催の令和5年度第2回定時理事会で承認された下記の者に対し、令和6年5月31日(金) 東京會舘（東京都千代田区丸の内）において授賞式を行い、前田工学賞の受賞者には賞状及び賞金（200万円）を、山田一字賞の受賞者にはそれぞれ賞状及び賞金（100万円）を贈呈した。

前田工学賞受賞者

区分	氏 名	所 属	論文題名
土木分野	山野井 悠翔	電力中央研究所 サステナブルシステム研究本部構造・耐震工学研究部門	Multi-directional crack model for cementitious composites in consideration of shear graveling
建築分野	後藤 沙羅	神戸大学 大学院工学研究科建築学専攻	伊丹潤の建築思想および建築作品に関する建築意匠論研究
ＩＣ分野	千田 紘之	株式会社北洲 ハウジング事業部建設部建設管理課	深層学習を用いた地震被災木造住宅の画像診断システム開発および普及促進に関する研究

山田一字賞受賞者

区分	氏 名	所 属	論文題名
土木分野	山下 奈穂	東京大学 大学院工学系研究科	循環型かつストック型社会の形成に向けた物質ストック関連指標の提案—日本における都市構造物のケーススタディー
土木分野	根本 浩史	清水建設株式会社 (公益社団法人 原子力環境整備促進・資金管理センターへ出向中)	コンクリートのこわばりに関する研究 ならびに こわばり低減剤の開発
建築分野	早川 小百合	京都大学 大学院工学研究科	シャルル＝エドゥアール・ジャンヌレの「都市の構築」における都市形態論とその思想的背景
建築分野	福井 一真	神戸大学 大学院工学研究科	過冷却を考慮した多孔質建築材料の凍結融解過程における熱水分挙動と変形および破壊のメカニズムの検討
ＩＣ分野	ZHANG JIAXIN (張 嘉新)	南昌大学 建築・デザイン学部	Automatic extraction and quantitative analysis of building facade information at large scale using street-level images and deep learning
ＩＣ分野	古庄 玄樹	大成建設株式会社 技術センター	位置姿勢推定機能を用いて非製材の自動加工を可能にするシステムの研究

3. 令和7年度事業に対する広報・募集及び選考活動について

当法人の助成金の交付時期は、研究者の年度計画達成を援助するため、新年度期首に交付している。そのため、標題の諸活動は先行的に令和6年度中に実施している。

(1) 広報活動

- ①当財団HPに募集要項、応募用紙を掲載した。(X (旧 Twitter) にも掲載)
- ②土木学会HP及び土木学会誌、建築学会HPに募集要項を掲載した。
- ③土木学会誌、建築学会建築雑誌に公募記事の同梱広告(チラシ)を入れた。

(2) 募集活動

令和3年度の募集より、従前の土木、建築分野にIC分野が新たに追加されているため、情報系の学部も新たに追加して、全国約280の工業高等専門学校、大学、大学院、国立研究開発法人のそれぞれの学部または窓口機関に募集依頼、募集要項及び学会誌同梱用に作成したチラシを送付している。また、新分野の地域工学分野については、多分野の学校関係者が参画している(一社)日本サイエンスコミュニケーション協会等にも募集案内を送付した。

(3) 選考

①研究助成について

土木分野56件、建築分野56件、IC分野10件、本年度から公募した地域工学分野には29件の応募があった。応募課題に対し、定められた評価要素につき第一次審査を行い、令和6年12月9日開催の第1回選考委員会(地域工学分野は12月3日開催)において、土木分野33件、建築分野37件、IC分野7件、地域工学分野は15件を第二次審査に付すこととした。

第二次審査は、全選考委員による審査結果に基づいて、令和7年3月4日開催の第2回選考委員会において、土木分野26件、建築分野26件、IC分野5件、地域工学分野11件の候補者を選定し、長瀧選考委員長から岸理事長に報告した。

理事長はこれを、同年3月19日開催の令和6年度第2回定時理事会に上程し、出席理事全員一致で選考委員会選定の候補の助成を決定し、その後申請者に通知した。

②前田工学賞・山田一字賞顕彰について

応募状況は、土木分野14件、建築分野23件、IC部門5件の計42件であった。

ア. 応募にあたって提出された学位論文の内容要旨及び論文業績について出席した選考委員全員によって、定められた評価要素を勘案し、一次審査を行った。令和6年12月9日開催の第1回選考委員会において、土木分野で8件、建築分野で12件、IC分野で3件の計23件を二次審査に付すこととした。

イ．二次審査は、学位取得時の本論文を委員全員で審査した。

その結果を令和 7 年 3 月 4 日開催の第 2 回選考委員会において審議し、前田工学賞として土木分野 1 名、建築分野 1 名、I C 分野 1 名の合計 3 名を、山田一字賞については土木分野 2 名、建築分野 2 名、I C 分野 2 名、合計 9 名の候補者を選定し、長瀧選考委員長より岸理事長に報告した。

ウ．理事長はこれを、同年 3 月 19 日開催の令和 6 年度第 2 回定時理事会に上程し、出席理事全員一致で顕彰を決定し、その後申請者に通知した。

令和 7 年度前田工学賞受賞者

土木分野：加藤 智大 氏

建築分野：酒井 正樹 氏

I C 分野：伊藤 陽 氏 以上 3 名

令和 7 年度山田一字賞受賞者

土木分野：松浦 忠孝 氏

岩本 匠夢 氏

建築分野：武藤 宝 氏

岡 健太郎 氏

I C 分野：李 陽洋 氏

山口 大翔 氏 以上 6 名

③国際会議助成について

土木分野 1 件、建築分野 6 件、共通分野 4 件、合計 11 件の申請があった。第 1 回選考委員会において、申請された 11 件全てを詳細に審査することとし、その結果を基に第 2 回選考委員会において選考した。選考の結果、土木分野 1 件、建築分野 2 件、共通分野 3 件を国際会議助成候補とすることとなり、理事長に報告した。

理事長はこれを、同年 3 月 19 日開催の令和 6 年度第 2 回定時理事会に上程し、出席理事全員一致で選考委員会選定の候補の助成を決定し、その後申請者に通知した。

④特別研究テーマの選考について

特別研究テーマには 35 件の応募があった。

令和 7 年 3 月 19 日開催の特別研究テーマ選考会では、令和 6 年 5 月 31 日の理事会で選任された審査理事により 20 グループを選定し、同日開催された令和 6 年度第 2 回定時理事会に上程し、出席理事全員一致で選考会選定の候補の助成を決定し、その後申請者（グループの代表者）に通知した。